

# 相模川中流域の自然環境を評価 する視点について

相模原市立博物館 秋山幸也

# 中流域の川の自然環境を見る目

評価のポイントは・・・

- ✿ 誰がその環境をつくりだしたか？
- ✿ 生息場所の多様性は高いか？
- ✿ 堤内地の環境とゆるやかなつながりがあるか？



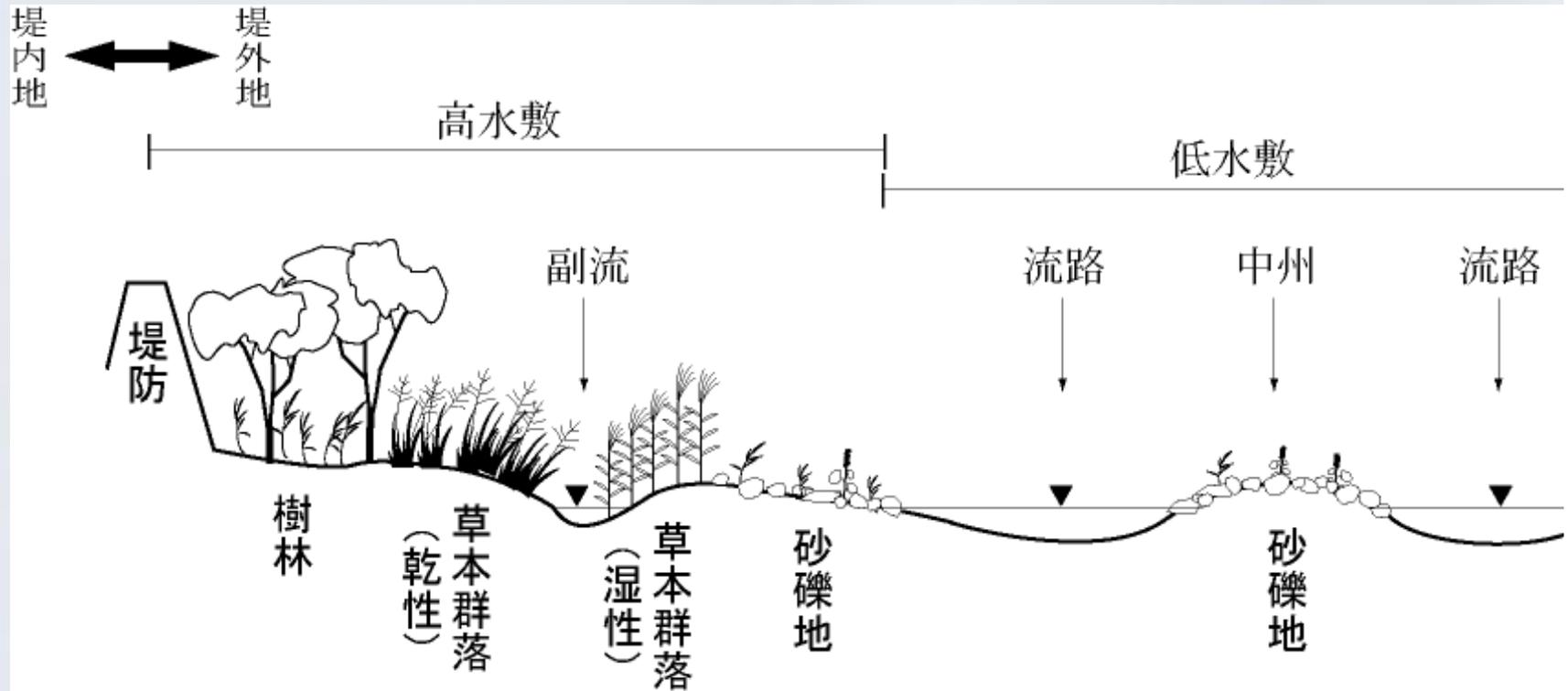
誰がその環境をつくりだしたか？

河原の環境は、水の流れ  
がつくるもの

水の流れによってつくられた環境が多いほど、  
また、その種類が多いほど河原の自然度が高い

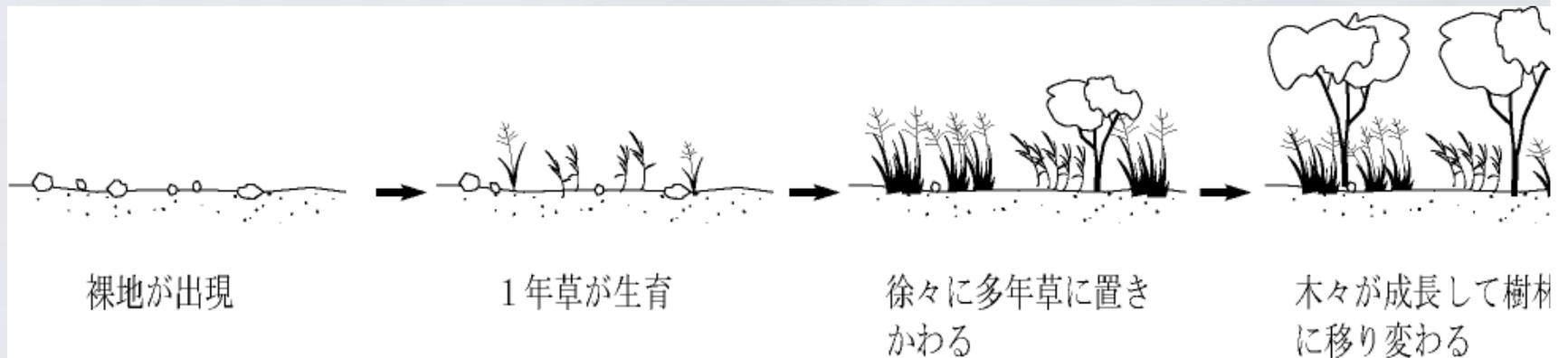
(中州、寄州、副流、わんど、瀬、淵、砂礫地、草地 etc.)

# 生息場所の多様性は高いか？



中流域では、一面に同じ環境があることよりも、モザイク状にさまざまな環境が入り組んでいるのが自然の状態。

# 河原の植生遷移



高水によって洗われるとふりだしへ

規模の異なる高水が断続的に起こることによって、河原にはさまざまな植生が存在する。

# 堤内地の環境とゆるやかなつながりがあるか？

✿ 堤防の内外で景観がそれほど変わらない。または、堤防があいまい。

→堤内地が段丘崖の樹林や、耕作地など緑が多い

→地域全体で豊かな環境

→堤内地が都市化された宅地や市街地

→河原の自然度は低い

ただし・・・

堤防を境に堤内外の環境ががらりと変わる。

→草地や樹林を生息環境とする動植物が、地域の中で河川に追い込まれている可能性がある

→生息する動植物は比較的普通に見られるものかもしれないが、生息環境として貴重